日アラスカ姉妹都市・国際青年オンライン会議

2021 年 12 月 10 日（アラスカ時間）／
12 月 11 日（日本時間）

2021 年 12 月 10 日（アラスカ時間）（日本時間 12 月 11 日）、日アラスカ姉妹都市・国際青年オンライン会議において採択された決議

（標題）姉妹都市交流・人的交流の促進と国際社会の課題

日アラスカ姉妹都市・国際青年オンライン会議は、

姉妹都市は文化交流や親善を目的とした地方自治体同士の緊密な関係を指し、国同士の外交関係とは別次元の関係であること、姉妹都市には「市民と市民・プログラム（people-to-people program）」との潮流があり、この潮流は国境を越えた市民間の交流を行い、相互理解を深めることで世界平和に寄与することを目標としていることを認識し、

日本とアラスカ間には8つの姉妹都市（アンカレジ市－千歳市、フェアバンクス・ノースター・バロー－紋別市、ホーマー市－天塩町、キーナイ半島郡－秋田市、ケチカン市－下呂市（金山町）、パーマー市－佐呂間町、スワード市－帯広市、シトカ市－根室市）がある他、「ワシラ市－内子町」「ジュノー市－西興部村」含むこれまで交流実績のある地方自治体があることを認識し、

姉妹都市交流に加えて、観光、各種国際会議・展示会などへの出席を目的とした人的交流も国際的な民間交流に寄与していることを想起し、

姉妹都市や人的交流は国同士の外交関係とは別次元の関係であるため、外交とは独立し、時代の趨勢から影響を受けることなく友好関係を深めることが可能であることを強調し、

姉妹都市交流や人的交流では、市長率いる訪問団による相互訪問、訪問時の際の交流行事の実施、学校交流（教師・生徒の相互交換、吹奏楽団の訪問）、オンライン行事、ペンパル育成プログラム、各種国際会議・行事の開催等、これまで交流促進のための多くの交流行事が実施されてきていることを想起し、

「日アラスカ姉妹都市フォーラム」は2020年末における準備会合を経て、日アラスカ姉妹都市関係者をメンバーとして2021年1月に設立され、これまで3回のオンライン会合において様々な議論が行われたことを認識し、

近年、インターネットにおける若者作成の映像投稿の増加を契機として、若者が国際社会における様々な問題について意見を述べる機会が多くなっており、特に、気候変動などの環境問題において、そのような現象が見られることを認識し、

1　姉妹都市の青年である出席者が、姉妹都市交流・人的交流に望むこととして以下の意見を表明したことを銘記し、在アンカレジ領事事務所がこれら様々の意見に対し謝意を表明したことを認識する;

・日アラスカ姉妹都市住民が相互に気軽に意見交換できる環境の創設は重要であり、これは学生が大勢の人々の前で話すことは緊張が伴うため、グループの中で気軽に話し合える環境作りが大切ということであり、当該環境の創設により、意見交換が容易になり、より深い親密な交流が可能となる、

・各姉妹都市の周知の長所だけでなく、周知されていない長所やむしろ短所の情報交換は、お互いが支え合う方法を理解し、今後の交流活動に活用できるという意味で重要である、

・日アラスカ姉妹都市には人的交流をしたい住民が多いため、今後一層、交流頻度や活動を増やし、より多くの住民が交流に参加できる環境作りが大切であり、その際、一対一の個人間の意思疎通のみならず、同じ関心を持つグループ同士で意見を交換することも一案である;

・ホームステイしながら国際交流を行っている自分の留学経験から、達成力と目標が重要と考える、

・現在はそれほど活発ではない姉妹都市間の交流を深めることが重要であり、そのためには、異文化体験イベントの促進、学生や教師との交流の促進、両都市間のより強い絆の構築が望まれる、

・国際化が進む中、アラスカや日本の社会でお互いが支え合う素晴らしい未来を切り開いていくためには、他国についての知見を深めることが重要であり、今回の「国際

青年オンライン会議」開催に感謝すると共に、私達はこれを契機に世界のために生きて行くよう心がけて行く、

・夏期に他国に旅行することは、姉妹都市間の関係を促進し、学生がホストファミリーと一緒に 90 日未満生活することで他国で働き生活する機会を得て、言語と文化を吸収することが可能となる、

・自分の好きなこと（例えば料理や食文化など）から相手国に関する知識を身につけて行くことが良いと考える、

・相手国のスポーツを体験し、どのようなスポーツに人気があり、（自国にない）どのようなスポーツが市民に親しまれているのかを知りたい、

2　姉妹都市の青年である出席者が、姉妹都市交流・人的交流において実施を希望する行事・プログラムとして以下の意見を表明したことを銘記し、在アンカレジ領事事務所がこれらのアイディアの実現に向けて検討する旨述べたことを認識する；

・日アラスカ相互に昔話をモチーフにしたゲーム：これはアラスカ側、日本側各々が回答者及び出題者として参加し、物語の内容（例えば、登場人物や主人公に纏わる経緯等）についてのクイズを行い、最後に物語紹介を行うイベントであり、昔話を知ることは異文化を知る上で一番理解しやすい方法であるので、当該行事の実施が望まれる、

・お互いに相手国の遊び（例えば、日本の「だるまさんが転んだ」、米国の「Mouse and Ground」）を教え合いながら楽しく遊ぶことが望ましい、ゲームはどこの国でも楽しめ小さい子供も言語を超えて楽しく交流できるので、ゲームを教えあうことを通じてよりお互いを知り仲良くなることができると考える、

・地元の長所や魅力についてのポスターを事前に作り紹介する行事：これはクイズなども交えながら楽しく相手地域のことについての知識を深め、自分の地域の魅力について改めて確認できる行事であり、質問コーナーや雑談時間を設ければより楽しい交流が可能となる、

・日アラスカ姉妹都市双方の伝統的な衣服、食事、遊戯を紹介し、一緒に料理・制作したり、遊びながら楽しむ行事：

・日アラスカ双方の市民がオンラインで参加する「音楽を通して交流」する行事：これは互いの地域に伝わっている伝統的楽器・奏法、民謡について理解を深め、共に楽しく交流する行事である、

・「はがき交換プログラム」：これは参加者がペアになり実際に集まるか、オンラインでポストカードを交換する行事であり、地元の風景やアートワークを共有するのに優れた行事であり、言語学習を奨励する機会にもなる、

・春休みや夏休みに交流プログラムを実施することは一案であり、これにより、学生やコミュニティ・メンバーは他の都市や国の旅行、文化、知識を体験できる、そのプログラム資金を獲得するため、個人（またはグループ）が資金調達を行い、寄付を求め、（該当する場合）個人資金を使用できる、

・おそらくズームを通じた読書交流（皆でお気に入りの本について会話し、他の人の話を聞いたりすること）は楽しい行事と考える、

・姉妹都市間で行われる研究会議などの研究交流が望まれる、これにより大学は化学、生態学、生物学、物理学において進行中の研究に関する関心と発見から利益を得ることができる、また、研究会議は学生と研究者が知識を共有しお互いの研究活動に共同で参加する機会を創出する優れた方法である、学生達は他の当事者から学び研究活動を充実させ、双方の都市をより良くする活動を拡大できる、

・ペンパル・キャンペーンを通じた K-16 の人的交流は海外との長期に亘る友情を構築し、若者たちが異文化に触れ第二言語を学び続けることに大きく貢献する、また結果として交換イベント等で直接会うことがえきれば、2つのコミュニティ内での長期の友情が提唱されることにもなる、

・ペンパル・プログラムは、言語や日常生活を共有する素晴らしい体験・方法であり、姉妹都市のペンパルをマッチングさせることができれば、関係者間で友好を築き、都市のつながりを強化することができる、お互い知識があれば外国の人と会話し新しい絆を築く機会が得られるので、人々はこれに喜んで参加するであろう、

・期間限定で交換日記のようなメッセージのやり取りを行うことが望ましい、手紙のやり取りだけでなく、インターネットによりタイムロスなくメッセージ交換が可能であるた

め、「今日何をしたか」「身近にこんな面白い出来事があった」等を伝え合うことで、楽しみながらお互いを理解し学びあうことができると考える、

・「ムービーウォッチング・プログラム」を提案する、お互い自国で好まれている映画についてのアンケート（小学生から高校生まで）をとり、投票結果で決まった映画の DVD を相手国に送り互いに紹介し合う行事で、映画やドラマなどが好きな市民も多いので、お互いの国の特徴をより良く知る機会にもなると考える、

・佐渡島での太鼓学習と「鬼太鼓」踊りの体験から、姉妹都市や学校同士の音楽や踊りの交流が望まれる、文化の音楽や踊り、それが日本とアラスカの様々な地域の伝統的なものであろうと現在の流れをくむものであろうと、音楽は普遍的な言語であるため、私たち全員が学べることがたくさんあり、人々の間のギャップを埋めることができる、

3　姉妹都市の青年である出席者が、「日アラスカ姉妹都市フォーラム」に議論して欲しい事項として以下の意見を表明したことを銘記し、在アンカレジ領事事務所が今後のフォーラム会合においてこれらを議論するよう努力する旨述べたことを認識する；

・「日アラスカ姉妹都市の季節毎の交流活動」及び「姉妹都市交流行事に参加している住民年齢の最頻値」、

・私たちの街を更に繋ぐために、両市のコミュニティ・ニュースをまとめたウェブサイトで、生徒会、スポーツ、クラス、高校生の一日のビデオなど、高校のトピックを紹介することが望ましく、それは優れた共有プラットフォームであり、社会的につながるための優れた方法である、

・幅広い世代間の人々が交流できる場、特に両国を往来せず実現できる交流方法を探究することが必要と考える、

・大学は、交換留学生が自分の言語能力に適した外国のクラスに溶け込み、留学利益の獲得に十分な挑戦をしていることを確認する必要がある、留学生を教室の環境に溶け込ませることは、学生の学業の成功や社会発展にとって非常に重要で、交換留学プログラムの適切な実施は重要なトピックである、

４　姉妹都市の青年である出席者が、国際社会の市民として課題に思うこと、その解決方法として以下の意見を表明したことを銘記し、在アンカレジ領事事務所がこれら意見の発表に謝意を表明したことを認識する；

・小、中、高校生等の間では姉妹都市の認知度は低いので、幅広い年齢層の住民に姉妹都市の交流や活動に参加して欲しい、このため、インターネットや公共施設におけるポスター掲示、チラシ設置による姉妹都市関連情報の拡散が重要である、

・グローバル化が進む中、看板・標識等の英語表記は増えているが、店内地図など更なる英語表記が可能な場所は多いため、より多くの外国人が居心地良く過ごせるよう、英語やピクトグラムでの分かり易い表記が大切である。

・社会において必要最低限の英語を話せるようになるため、英語の授業でペアワークや ALT との交流を増やし、他国の文化・言語についてより積極的に学ぶべきである、

・他国について関心を深めるために話を聞くだけでなく、実際に体験する機会を作るべきである、

*日本ではパンデミックが始まってから児童虐待が 10%近く増加し、米国でも増加している、パンデミックの間、子供と親はより多くの時間を一緒に過ごすようになっているため、親への支援を提供すべきである、

*不安やメンタルヘルスは若者の間で増加している問題であり、インターネットやパンデミックは若者のメンタルヘルスの問題を更に増加させており、7 人に 1 人が生活の中でメンタルヘルスの問題を経験しているので、私たちはメンタルヘルスについて話せるようになる必要がある、

*薬物乱用は毎年多くの死者を出し、薬物乱用を防ぐためのより多くのグループによる支援が必要であり、またリハビリセンターへのより良い資金が必要であるが、ThriveMat-Su は Mat-Su 自治区での若者の薬物乱用と闘うために活動する機関である、

*障害者とのコミュニケーションは難しい場合があるが、より適切にコミュニケーションを取り、障害者を含めることができると考える、

*恐怖と不確実性が募っているため、支援が必要な姉妹都市とより密にコミュニケーションが取れるよう、より基本的なシステムを構築する必要がある、

＊ COVID-19 のパンデミックが始まった後、アジアの憎悪と人種差別が増加したが、他者との意思疎通を改善し人と人との理解を深めることで、人種差別を減らすことができる、

*アラスカの気候変動は、鮭の死滅、氷河の融解、山火事の発生頻度の増加など、大きな変化を招いているため、炭素排出量を削減し、削減、再利用、リサイクルを行う必要がある、

５　姉妹都市の青年である出席者が意見交換セッションで「日アラスカ姉妹都市・国際青年オンライン・フォーラム」設置の必要性について議論し、同セッション議長より本会議に対し以下が報告され、決定された。

・同フォーラムの設置は必要であり、
・開催頻度は毎月、
・メンバー資格は高校生と大学生のみ、
・開催のタイミングはこの会議と同じ時間帯（土曜日、午前１０時（日本時間）・金曜日、午後4時（アラスカ時間））、
・議論のテーマとしては、例えば観光地や映画の紹介、フォーラムで使用するアプリ、共通目標の設定などが適当である。